



令和7年9月8日
一般社団法人日本地質学会

日本地質学会第132年学術大会（2025 熊本）

発表形態：資料配布（9月8日）

発表先：文部科学省記者会、熊本県政記者クラブ、科学新聞社

概要：

- 1) 学術大会のご案内（資料1）
- 2) 表彰
- 3) 行事のご案内
 - ・ 市民講演会「熊本から始める最新恐竜学」（資料2）
 - ・ 地質情報展 2025 くまもとー火の国、水の国！ 大地のふしぎー（資料3）
 - ・ 第22回日本地質学会ジュニアセッション
 - ・ 学生のための地質系業界説明会～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～（資料4）
 - ・ 中学・高等学校の理科（地学）教科書に関する説明・意見交換会
- 4) ハイライト講演（資料5）

内容：

1) 日本地質学会第132年学術大会（2025 熊本大会）を開催

開催日： 研究発表： 9月14日（日）～16日（火）

会場： 熊本大学黒髪キャンパス（熊本市中央区黒髪）

プログラム：<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/geosocjp132/content/program>

上記 URL より発表プログラム等を閲覧できます。学術大会取材希望の方は、事前（学会事務局）、もしくは当日（会場受付）申し出て下さい。

2) 表彰

一般社団法人日本地質学会では地質学に関する優秀な研究業績を修めた方や地質学の発展・普及による社会貢献の著しい方を顕彰しています。2025年度の各賞受賞者は7件で、学術大会で受賞記念スピーチを行う受賞者は次の方々です。

日程：9月14日（日）15:30～17:30（予定）

会場：熊本大学工学部百周年記念館（黒髪南キャンパス）

都城秋穂賞

受賞者：Ali Mehmet Celâl Şengör 氏（イスタンブール工科大学地質工学科）

対象研究テーマ：プレートテクトニクス的造山運動論の体系化とユーラシア大陸形成史の研究

日本地質学会小澤儀明賞

受賞者：松本廣直会員（筑波大学生命環境系）

対象研究テーマ：物質的・地球化学的情報を組み合わせた超巨大海台形成史の復元と地球環境変動との関連解明

3) 行事のご案内

(1) 市民講演会 「熊本から始める最新恐竜学」

日時： 9 月 15 日（月・祝）14:00～16:00（入場無料・事前申込不要. どなたでもご聴講いただけます）

会場： 熊本城ホール 3F 会議室 A1

真鍋 真氏（国立科学博物館）「九州と白亜紀と恐竜学」

大橋智之氏（北九州市立自然史・歴史博物館）「北部九州の恐竜研究のいま」

黒須弘美氏（天草市立御所浦恐竜の島博物館）「恐竜の島・御所浦」

池上直樹氏（御船町恐竜博物館）「御船層群の恐竜たち」

概要：

1979 年に御船町で国内最初の肉食恐竜の化石が発見されてから、熊本県下の白亜系より多くの恐竜化石やワニ、トカゲ、翼竜などの爬虫類、哺乳類など、さまざまな脊椎動物化石が報告されてきました。2014 年には御船町恐竜博物館の新館がオープンし、御船層群での発掘成果が公開され、調査・研究や普及活動と並行して、モンタナ州恐竜化石プレパレーションプロジェクトなどの独自の企画や普及活動が行われてきました。昨年は、天草市立御所浦恐竜の島博物館がリニューアルされ、天草地域からティラノサウルス科の下顎の骨が報告されました。離島にも関わらず 1 年間で日本各地から約 2 万 5 千人以上の来館者がありました。熊本大学でも、九州各地や海外での地質調査や恐竜化石などの発掘に関わっており、昨年は熊本大学キャンパスミュージアムの企画展として、これまでの理学部・教育学部の研究成果に加えて、御船町恐竜博物館や天草市立御所浦恐竜の島博物館、鹿児島県の薩摩川内市甕ミュージアムの立ち上げに貢献した研究や発

掘調査の様子などが紹介されました。

市民講演会では、4名の恐竜研究者に御登壇頂き、最新の恐竜学について紹介していただきます。講師の真鍋 真氏は、“恐竜博士”として国際的な研究のみならず、テレビや新聞、全国各地の恐竜展などで30年以上にわたって活躍してきた方です。大橋智之氏は、特に化石鳥類について第一線で活躍している研究者であり、全国規模での教育・普及活動を展開しています。黒須弘美氏は、博物館のリニューアルに深く関わり、天草地域の恐竜化石等の研究を行っています。池上直樹氏は、御船層群の恐竜・翼竜化石の研究や、モンタナ州との連携など、研究・普及活動を実施しています。

(2) 地質情報展 2025 くまもとー火の国、水の国！大地のふしぎー

熊本県の地質や地震、火山、資源についてパネル展示や各種体験コーナーを通して解説する「地質情報展 2025 くまもと」を開催します。産総研が作成した地質図を床に大きく張り付けた床張り地質図や、地質や地震、火山に関わる実験・実演など各種体験コーナーを通じて、熊本やその周辺の地質や防災について楽しみながら学べるイベントです。ぜひ、「地質情報展 2025 くまもと」にご来場ください。

日程：2025年9月13日（土）～15日（月・祝）

9月13日（土）13:00～17:00※

9月14日（日）9:30～17:00

9月15日（月・祝）9:30～16:00

（ただし13、14日の入場は16:30まで、15日の入場は15:30まで；※一部、一般向けには閉鎖しているコーナーがあります）

会場：熊本城ホール（熊本県熊本市中央区桜町3-40）[入場無料]

主催：産総研地質調査総合センター・産総研九州センター・日本地質学会ほか（予定）

後援：九州地質調査業協会ほか（予定）

詳細：<https://www.gsj.jp/event/johoten/index.html>

地質学会コーナー：第15回惑星地球フォトコンテスト入選作品等の展示

(3) 第22回日本地質学会ジュニアセッション

日本地質学会地学教育委員会では、地学普及行事の一環として、地学教育の普及と振興を図ることを目的として、学校における地学研究を紹介する発表会をおこなっています。熊本大会でも、小・中・高等学校の地学クラブの活動、および授業の中で児童・生徒が行った研究の発表を予定しています。昨年に引きつづき、学術大会セッションと同様の対面でのポスター発表となります。

1) 日時：2025年9月14日（日）コアタイム 13:30～15:00

2) 熊本大会ポスター会場

3) 参加校 (13 校 26 講演を予定, 順不同)

熊本市立月出小学校
熊本県立天草高等学校
熊本県立宇土高等学校 科学部地学班
池田学園池田高等学校 科学思考/SSH 地球科学班
豊見城市立豊見城中学校 琉大ハカセ塾
愛媛大学 附属高等学校
兵庫県立 姫路東高等学校
和歌山県立 田辺高等学校
名古屋高等学校 名古屋中学校
中央大学 附属高等学校
東京学芸大学 附属高等学校
市川高等学校
北海道龍谷学園 小樽双葉高等学校 科学同好会

(4) 学生のための地質系業界説明会～その業界の仕事を知るためのサポートサービス～

日本地質学会地質技術者教育委員会では、学生会員が将来就職する可能性のある地質・資源・建設分野に関わる地質系企業・団体との対面説明会を企画・開催し、学生会員が地質系業界を研究するサポートサービスを展開します。

開催日時：2025 年 9 月 15 日（月祝）10:00～17:00

開催場所：熊本大学黒髪キャンパス（〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪 2-39-1）
黒髭北地区・全学教育棟 2 階の 6 部屋（B201、B202、D201、D202、D203、E204）

参加費：無料（会員・非会員問わず）

参加企業・団体数：40 社

参加方法：事前予約を優先しますが、当日来場の参加も受け付けます。

訪問時間：1 ブース当たり 20-30 分程度、学生 1 人あたり最大 14 社程度の訪問が可能です。

(5) 中学・高等学校の理科（地学）教科書に関する説明・意見交換会

日時：2025 年 9 月 16 日（火）15:30～17:00

会場：熊本大学黒髪キャンパス（黒髭北エリア全学 E 棟 1F, E105 教室）

内容：学校教科書は生徒が教科・科目を学ぶための主たる教材ですが、一方で基礎的

な学術動向の普及・定着を図る書籍という側面もあります。ちなみに高等学校「地学基礎」の2025年度需要数は31万部を超え、いまや大学入学共通テストでは「物理基礎」よりも多くの受験選択者を集める科目になっています。

高等学校「地学基礎」と「地学」の内容は、平成21年と平成30年の学習指導要領改訂を経て、以前の「地学Ⅰ」と「地学Ⅱ」から大きく変わった部分があります。教科書作成、大学入試問題作成、高等学校の地学教育などに関わっていないと気づきにくい点が多いですが、学術の進展を反映して学校教科書は着実に改善されています。しかし、地質学専門家の科学的常識と学校教科書の記述との間に大きな違いが見られる部分もあります。その改善に向けて、地質学専門家と学校教育関係者が意見を交換し、ともに理解を深める場を設けます。この説明・意見交換会では、文部科学省教科書調査官から最近の中学・高等学校理科教科書における地質学に関わる記述の状況について説明していただき、それをうけて参加者が自由に意見を交換できるようにします。

4) ハイライト講演

シンポジウム・セッションがより盛り上がることを期待して、また、会場で学術大会に不慣れな方（学生など）にわかりやすく情報を提供し、おもしろいサイエンスにひとつでも多く接してもらうことを目的に、「おもしろそう、注目すべき、ぜひ聞いてほしい」発表を世話人に選んでいただきました。詳細は別紙 資料2

連絡先：

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 (社) 日本地質学会事務局
電話 03-5823-1150 ファックス 03-5823-1156
e-mail: main@geosociety.jp
URL <http://www.geosociety.jp>
広報担当理事：坂口有人 (e-mail: arito@yamaguchi-u.ac.jp)

(資料 1)

【一般社団法人日本地質学会の概要】

1893（明治 26） に東京地質学会として創立され、1934（昭和 9） に日本地質学会へと改称。2008（平成 20） より一般社団法人日本地質学会となりました。本会には、研究者、学校教員、地質技術者、学生、地質愛好者など約 3,100 名が所属し、この分野を包括し、日本の地球諸科学関連学協会の中で最大規模の学会です。学問の振興と社会の発展に寄与・貢献することを目的として、学術誌「地質学雑誌」と欧文国際誌「Island Arc」の刊行、学術大会の開催、そのほか様々な普及教育活動を全国で行っています。

【学術大会】

毎年秋に開催される研究学術成果講演会であり、開催地を毎年移しつつ全国各地で行われ、例年約 500 件以上の講演を含めて約 800 名弱が参加します。また、小学、中学、高校生の研究発表会である「ジュニアセッション」も開催されます。同時に、会員向けおよび一般向けに開催地周辺の地質を見学する巡検（見学旅行）も行われます。独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センターと共催で、地質情報展や普及講演会等も大会に合わせて開催しています。これほどの規模で教育普及イベントを同時開催し、それを全国各地で実施している地学系の学会は他に類を見ません。

【地質情報展】

1997 年より毎年、学術大会に合わせて開催されています。地質のトピックや開催都道府県の地質に関するパネル・標本展示のほか、地学に関するいろいろな実験や観察の体験コーナー、市民向けの講演会が用意されます。各展示コーナーでは研究者が解説を行い、見学者は研究者に直接いろいろな質問をすることができます。例年、会期中に多くの市民の皆様に来場頂いております。

(資料2)

日本地質学会第 132 年学術大会 (2025 熊本大会)

市民講演会

2025 年 9 月 15 日 (月・祝) 14:00 ~ 16:00
(開場13:30)

事前登録不要
参加費無料

場所 | 熊本城ホール 3F 会議室 A1 定員 150 名

熊本から始める最新恐竜学



九州と白亜紀と恐竜学

真鍋 真 国立科学博物館



北部九州の恐竜研究のいま

大橋 智之 北九州市立自然史・歴史博物館



恐竜の島・御所浦

黒須 弘美 天草市立御所浦恐竜の島博物館



御船層群の恐竜たち

池上 直樹 御船町恐竜博物館

主催 | 一般社団法人 日本地質学会

後援 | 天草市立御所浦恐竜の島博物館、御船町恐竜博物館、熊本市教育委員会

熊本から始める最新恐竜学

1979年に御船町で国内最初の肉食恐竜の化石が発見されてから、熊本県下の白亜系より多くの恐竜化石やワニ、トカゲ、翼竜などの爬虫類、哺乳類など、さまざまな脊椎動物化石が報告されている。

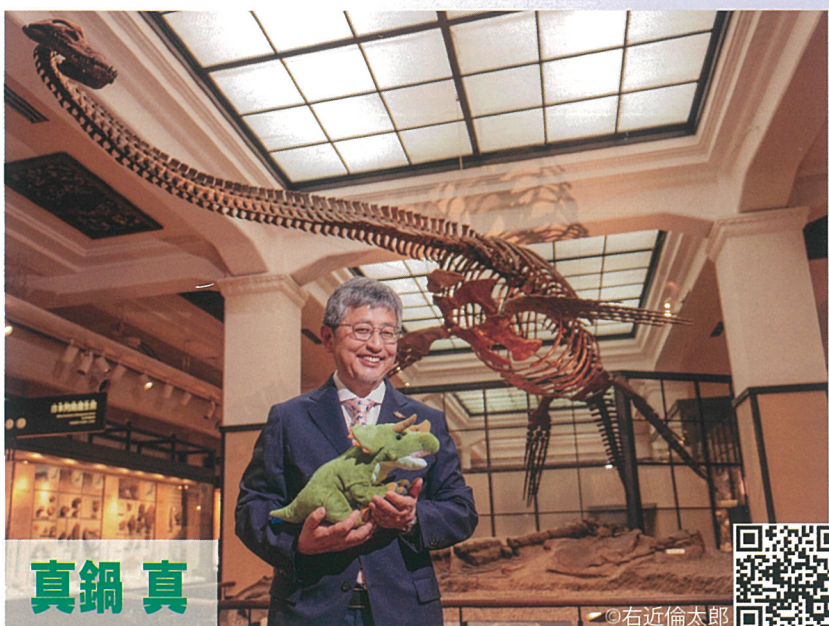
本市民講演会では、4名の恐竜研究者に御登壇頂き、最新の恐竜学について紹介して戴く。

真鍋 真氏は、“恐竜博士”として国際的な研究のみならず、テレビや新聞、全国各地の恐竜展などで30年以上にわたって活躍してきた方である。

大橋智之氏は、特に化石鳥類について第一線で活躍している研究者であり、全国規模での教育・普及活動を展開している。

黒須弘美氏は、博物館のリニューアルに深く関わり、天草地域の恐竜化石等の研究を行っている。

池上直樹氏は、御船層群の恐竜・翼竜化石の研究、モンタナ州との連携等を実施している。



©2010 熊本県くまモン 2019/11/25

科研費
KAKENHI

本市民講演会は、JSPS 科研費（課題番号25HP0007）の助成を受けたものです。

火の国・水の国!

大地のふしぎ

2025 **9/13~15** 土 祝

楽しく地球を学べる3日間!

時間

13日 13:00~17:00

14日 9:30~17:00

15日 9:30~16:00

※最終入場は終了時刻の30分前

入場無料

Webをチェック→



会場

熊本城ホール(1階 展示ホールA)

市電:辛島町電停より徒歩2分 近隣に駐車場(有料)あり

展示

熊本の地質や地下水・資源、
地震・活断層・火山・斜面災害などのパネルと解説

実験・
体験



化石レプリカづくり



石 割り体験



火山 噴火実験 ほか



9/13(土)・14(日)

研究者による
熊本城、火山、活断層、地下水のお話
1階 展示ホールA 14:00~16:00 事前申込不要

日本地質学会
市民講演会

9/15(祝)

九州の恐竜のお話
3階 大会議室A1 14:00~16:00 事前申込不要



国立研究開発法人産業技術総合研究所

主催: GSJ 地質調査総合センター・九州センター、
一般社団法人
日本地質学会

共催: 阿蘇ジオパーク推進協議会

後援: 熊本県、熊本市、熊本市教育委員会、日本ジオパークネットワーク、
一般社団法人
九州地質調査業協会、日本応用地質学会九州支部、熊本日日新聞社

お問い合わせ
事務局

TEL : 029-861-3540 (平日昼のみ)
Email : M-johoten2025-ml@aist.go.jp
URL : <https://www.gsj.jp/event/johoten/>

展示・解説

- ・展示の内容は予定です。予告なく変更あるいは取りやめになる場合がございます。
- ・地質情報展のスナップ写真を産総研地質調査総合センターのウェブサイト及び出版物に掲載させていただくことがございます。その他の目的に使用することはありません。

参加企業・団体

全47社!!
(対面40社)

参加企業・団体一覧は裏面へ!

(資料4)



学生のための 地質系業界説明会 2025

参加費
無料※

対面開催: 9月15日(月)

熊本大学 黒髪キャンパス

開催時間: 10:00~17:00

開催場所: 全学教育棟2階 B201.202, D201.202.203, E204

※会員・非会員問わず
※学術大会の研究発表会
やその他企画は別途

◆参加方法

- ・事前予約
- ・当日受付

申込フォーム



◆説明会の詳細はこちら



飛び込み参加可能

◆アンケート(学生用)



◆問合せ先

一般社団法人 日本地質学会事務局
E-mail: main@geosociety.jp
URL: <https://www.geosociety.jp>



◆参加企業・団体(数字はブース位置を示す)

★対面

25 株式会社アーステクノ
8 株式会社アサノ大成基礎エンジニアリング
33 UBE三菱セメント株式会社
29 株式会社エイト日本技術開発
38 応用地質株式会社
3 株式会社奥村組
39 株式会社開発工営社
16 川崎地質株式会社
30 基礎地盤コンサルタンツ株式会社
1 協和地下開発株式会社
12 K&Oエナジーグループ株式会社
7 原子力発電環境整備機構
9 株式会社建設技術研究所
21 鉱研工業株式会社
6 国際航業株式会社
20 国立研究開発法人産業技術総合研究所
地質調査総合センター

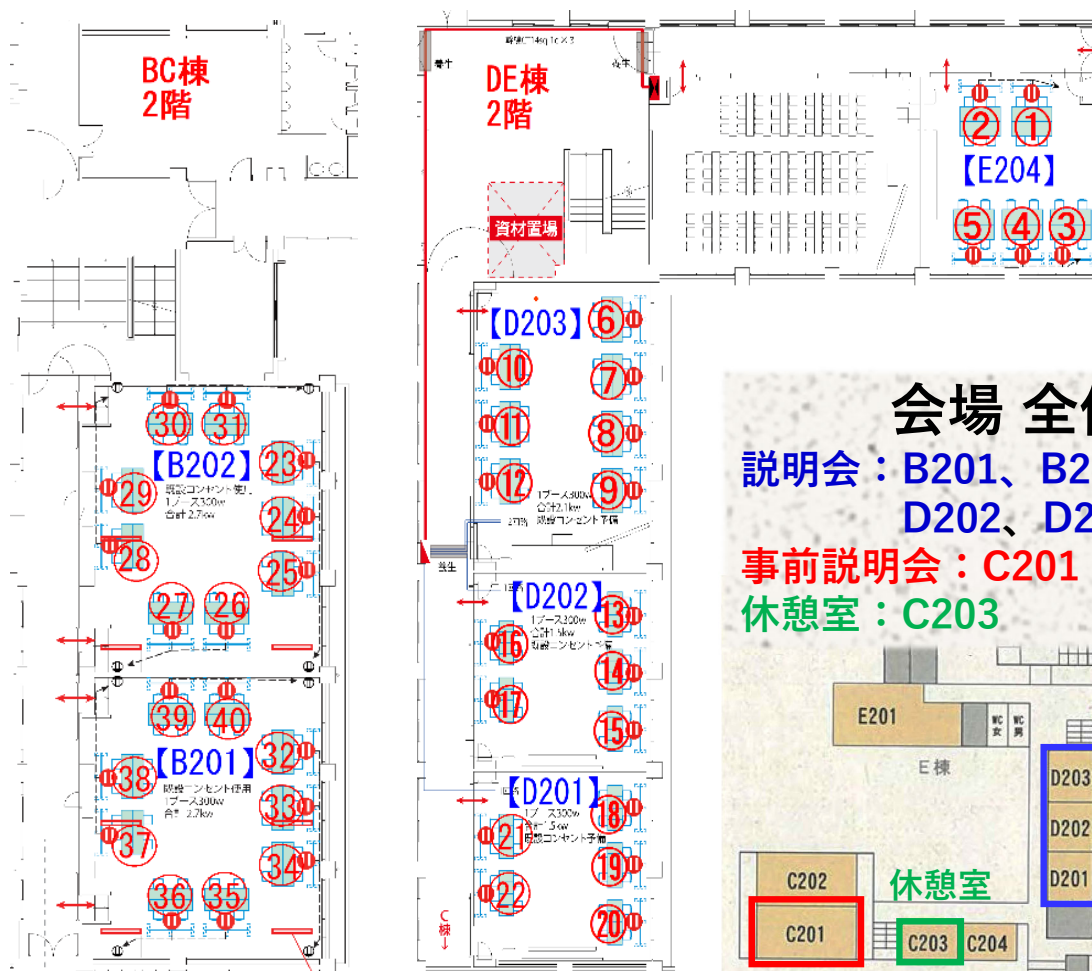
11 サンコーコンサルタント株式会社
28 三洋テクノマリン株式会社
23 三和ボーリング株式会社
14 住友金属鉱山株式会社
17 石油資源開発株式会社
40 大日本ダイヤコンサルタント株式会社
32 太平洋セメント株式会社
19 株式会社地圏総合コンサルタント
35 地熱エンジニアリング株式会社
24 中央開発株式会社
31 株式会社中部森林技術コンサルタンツ
4 一般財団法人電力中央研究所
27 株式会社ドーコン
37 ドリコ株式会社
10 日鉄鉱業株式会社
13 日特建設株式会社
34 日本海洋事業株式会社
26 株式会社ニュージェック

15 株式会社パスコ
18 株式会社阪神コンサルタンツ
22 明治コンサルタント株式会社
2 明大工業株式会社
36 八洲開発株式会社
5 八千代エンジニアリング株式会社

□HPでの資料紹介のみ

ENEOS Xplora株式会社
株式会社開発調査研究所
共立工営株式会社
JX金属探開株式会社
住鉱資源開発株式会社
株式会社東亜建設コンサルタント
株式会社 日さく

◆ブース配置図

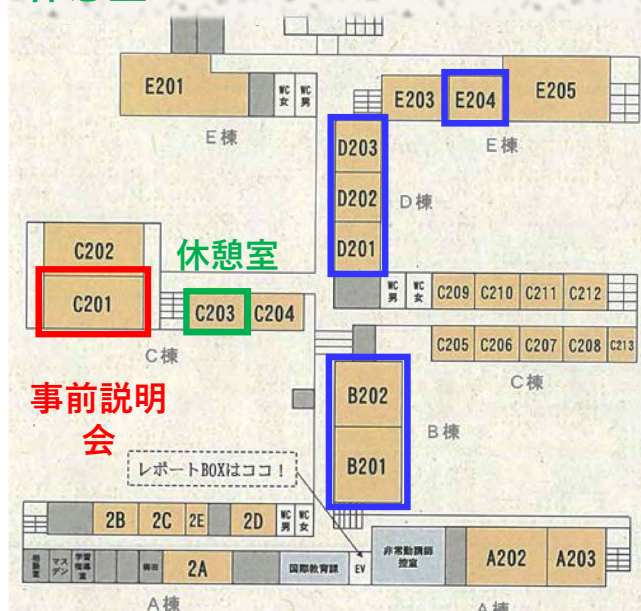


会場 全体図

説明会 : B201、B202、D201、
D202、D203、E204

事前説明会 : C201

休憩室 : C203



(資料5)

ハイライト講演： それぞれのシンポジウム・セッションがより盛り上がることを期待して、また、会場で学術大会に不慣れな方（学生など）にわかりやすく情報を提供し、おもしろいサイエンスにひとつでも多く接してもらうことを目的に、「おもしろそう、注目すべき、ぜひ聞いてほしい」発表を世話人に選んでいただき、わかりやすく紹介いただきました。何らかの理由で学会のプレス推薦候補にならなかった優れた研究が埋もれているかもしれません。そのようなものをできるだけ発掘し、より多くの学術情報を提供したいと考えます。						
2025年8月 日本地質学会行事委員会 日本地質学会第132年学術大会（2025熊本）						
セッション	講演番号	発表日時・会場	発表者氏名	発表タイトル	紹介文	キーワード
Gジェネラルセッション	G-P-11	9/14	星 博幸	背斜と向斜の教え方	地学という教科は高校までない。それも必修ではない。それに対して、小学校から理科という教科の中で、地学の基本概念はほとんど教えられている。発表者はこの部分に注目して、どのように基本概念を導入したらよいか提案している。地学教育の基本にかかわる重要問題である。	地学教育 向斜 背斜
T01 変成岩とテクトニクス	T1-P-31	9/15	古川 且	岩石中で著しく粗大化した単結晶の形成メカニズムとシミュレーション：高島マントルゼノリスを例に	岩石組織は多くの場合非平衡であり、平衡状態に向かう途中であるためその岩石が保持された状態の継続時間を見積もれる可能性がある。本研究はピン止め効果のような粒成長を阻止する現象があっても時間情報を抽出可能である異常粒成長に着目している。このような組織を含んでいる佐賀県高島産のダナイトゼノリスを例にとり、組織観察とモンテカルロシミュレーションを組み合わせて異常粒成長発生の妥当性を検証し、時間情報抽出の可能性を探っている。	異常粒成長、マントルゼノリス、ピン止め効果
T01 変成岩とテクトニクス	T1-P-30	9/15	岡田 花	糸魚川市山之坊地域における角閃石岩類の起源とコスモクロア輝石との成因関係	コスモクロア輝石はCrを主成分に含む希少な輝石である。2019年に新潟県山之坊露頭での産出が新たに記載されたが、コスモクロア輝石とその周囲をとりまく角閃石岩の成因関係が理解されていない。本研究では野外調査・岩石組織観察・鉱物化学分析を行い、曹長石、ヒスイ輝石、角閃石、クロム鉄鉱、蛇紋石が複数のステージによって反応し、最終的にクロム鉄鉱と拡散してきたNa2O成分が反応することでコスモクロア輝石が生成したことを明らかにした。	角閃石、コスモクロア輝石
T01 変成岩とテクトニクス	T1-P-16	9/15	會田 幸樹	三波川変成帯の超苦鉄質岩体の分布と産状	日本列島の三波川変成帯（御荷鉾帯起源も含む）では、多様なテクトニックセッティングからもたらされた超苦鉄質岩体が点在している。著者らは、約40岩体・約200試料という圧倒的な量の野外調査・試料観察を行い、超苦鉄質岩の特徴を議論している。三波川帯の超苦鉄質岩類の分布と起源・テクトニクスについて、これまで以上の情報が得られることが期待される。	蛇紋岩、橄欖岩、三波川変成帯
T01 変成岩とテクトニクス	T1-O-14	9/15 第2会場 (E107) 9:15 ～ 9:30	國谷 七海	ドローン磁気探査による蛇紋岩分布の抽出：赤石山地北部・三波川帯の例	近年、ドローンを使った地球物理学的観測により、広域な観測を簡単かつ低コストに実施できるようになった。本公演は、蛇紋岩体（長野県赤石山）のドローン磁気探査を行った結果を報告しており、次世代型の地質調査に関する展開が紹介される。	ドローン（UAV）、磁気探査、蛇紋岩
T01 変成岩とテクトニクス	T1-O-5	9/14 第2会場 (E107) 9:45 ～ 10:00	権藤 洗人	東南極セール・ロンダーネ山地プラットフォームに産するザクロ石-黒雲母片麻岩中の超高温変成作用を示唆するルチル	著者らは、東南極セールロンダーネ山地に産するグラニュライト相のザクロ石-黒雲母片麻岩から、ザクロ石中のルチルの産状とZr含有量に着目することで、超高温変成作用の痕跡の検出に成功している。グラニュライト相に達する高温変成帯における超高温変成作用の空間分布やそのテクトニクスの解明に貢献することが期待される。	東南極セール・ロンダーネ山地、超高温変成作用、ルチル
T01 変成岩とテクトニクス	T1-O-2	9/14 第2会場 (E107) 9:00 ～ 9:15	北代 拓人	宮崎県、尾鈴山酸性岩体に産するS-type花崗岩類における下部地殻の部分溶融と組成変化	西南日本全域で生じた中新世中期のフレアアップを記録する尾鈴山酸性岩体を対象としている。野外調査および岩石記載を元に主岩相（溶結凝灰岩、花崗閃緑斑岩）の層序や他岩相（安山岩質MME、堆積岩起源ゼノリス）との地質学的関係性を明確にし、主岩相の全岩化学組成だけでなく他岩相の岩石学的解析を展開することで、尾鈴山酸性岩体のマグマ進化過程を構築しており、フレアアップ発生機構への理解が深まることが期待される。	フレアアップ、西南日本外帯、尾鈴山酸性岩体
T02 マグマソース・マグマ供給系から火山体形成・熱水変質まで	T2-O-4	9/14 第6会場 (E305) 10:00 ～ 10:30	西本昌司	日本におけるエビ閃長岩	エビ閃長岩(episyenite)は、国内ではあまり知られていない岩石ですが、熱水変質岩の一種で、特に花崗岩の熱水変質過程を理解する上で重要な研究対象です。国内初のエビ閃長岩の研究報告は、岐阜県瑞浪市で掘削された花崗岩ボーリングコアから発見されたものについてです（Nishimoto et al., 2014）。本講演では、その発見者である西本昌司氏に、発見に至るまでの経緯や地質学的意義などについて紹介していただきます。	エビ閃長岩、花崗岩、熱水変質
T03 文化地質学	T3-O-7	9/15 第1会場 (E105) 10:45 ～ 11:15	田中尚人	人々の暮らしから読み解く、阿蘇の文化的景観20年	2004年の景観法運用を契機に、阿蘇では火山と共生する「耕田-集落-森林-草原」の土地利用が文化的景観として注目され、2017年以降は国の重要文化的景観に選定・拡大された。野焼きや放牧による草原維持、生物多様性の保全、農耕祭事や信仰の継承などが評価され、農耕の起源から水利整備、鉄道開通や観光発展、災害復興までの歴史を背景に、文化的景観は、持続可能な地域づくりに資する貴重な資産となっている。	観光法 文化的景観 草原
T03 文化地質学	T3-O-11	9/15 第1会場 (E105) 15:00 ～ 15:30	一村一博	たかが「石」されど「石」	地球の営みが造った「石」は、私たち人類の発展になくてはならないものである。特に火山の大噴火が造った「石」の恩恵は、九州の文化形成に計り知れない影響を与え続けている。中でも「石橋」は、大噴火が造った難所を「石」の恩恵で克服した建造物であり、貴重な文化的土木遺産である。石橋の歴史、それを築造した石工集団、石橋の景観、保全活動などについて紹介していただく。	阿蘇 火山噴火 石橋
T04 岩石・鉱物の変形と反応	T4-O-8	9/15 第3会場 (E201) 17:00 ～ 17:30	氏家恒太郎	スロー地震の地質学的痕跡を探る	近年、スロー地震の発生源を経験したと考えられる付加体および高圧変成岩露出域における露頭観察により、スロー地震の発生像解明に関する研究が行われている。本発表では、上記研究の先駆者である講演者らによって明らかとなった、地震学的に観測される低周波微動の地質学的痕跡や、測地観測で観測できない速度での変形の痕跡などについて紹介していただく。	石英脈、緑泥石-アークチノ閃石片岩、交代作用
T04 岩石・鉱物の変形と反応	T4-O-14	9/16 第3会場 (E201) 10:00 ～ 10:15	亀田 純	火星表層環境の再現を目指した実験装置の整備と今後の研究展望	火星の温度・気圧・大気組成・湿度といった環境条件を再現できるスペースチャンパーや、低重力から過重力まで幅広い重力環境を再現可能な3軸クリノスタットなど、火星表層環境を地上で模擬可能な装置群の整備が講演者らによって進められている。本招待講演では、これらの設備の基本仕様や、今後これらの装置を活用して展開可能な研究の展望について紹介していただく。	火星、スペースチャンパー、3軸クリノスタット

T05 沈み込み帯・陸上付加体	T5-0-1	9/16 第2会場 (E107) 8:45 ～ 9:15	氏家恒太郎	IODP Expedition 405 JTRACKの成果	IODP第405次航海「JTRACK」は、昨年9月から12月にかけて東北地方太平洋沖地震震源域で実施されました。地震後13年を経た応力状態や沈み込み帯の断層構造を解明することが主な目的です。コア採取と検層を実施し、断層を貫く掘削孔に温度計を設置して水理学構造解明に挑みました。本講演では、この最新掘削で得られた成果を速報として紹介し、巨大地震発生要因の理解に新たな視点を提供します。他にも関連する講演が複数あります。	当方司法太平洋沖地震、IODP、JTRACK
T06 中琉球の新たな地体構造単元：徳之島帯の特徴と研究課題	T6-0-2	9/14 第7会場 (E301) 10:15 ～ 10:45	宇野正起	中琉球、徳之島帯の角閃岩類の变成組織と变成履歴	徳之島では、四万十付加体の構造上位に低圧高温型広域变成岩類が累重するが、それらの形成条件の詳細は明らかになっていない。宇野氏は、变成作用の解析手法について新たな視点から挑戦され、流体反応の物理化学プロセスの実態に迫る研究を推進されている。その手法を徳之島のマフィック变成岩（角閃岩）に応用して得られた温度圧力条件などについてご講演いただく。	角閃岩 变成作用 温度圧力経路
T06 中琉球の新たな地体構造単元：徳之島帯の特徴と研究課題	T6-0-3	9/14 第7会場 (E301) 10:45 ～ 11:15	桑谷 立	角閃石の温度圧力履歴からみた丹沢变成岩のダイナミクス	桑谷氏は、变成作用の累進的脱水作用一般について研究され、丹沢变成帯についても成果をあげておられる。本セッションでは、井之川岳变成複合体（徳之島帯）の变成岩類構成と類似した特徴を有する丹沢变成帯についての最新の研究成果を講演していただく。本講演は、徳之島帯の帰属について重要な示唆を与えるものと期待される。	丹沢 衝突帯 角閃石
T07 堆積地質学の最新研究	T7-P-6	9/16	大川 真弘	高解像度デジタル露頭モデルを用いた不連続構造の自動抽出法の開発と三浦層群三崎層を対象とした三次元地質構造調査への適用	本講演では、SfM (Structure from motion)多視点ステレオ写真測量技術を用いて作成したデジタル露頭モデルから地質構造を自動抽出することで、これらの技術の地質調査への適用を評価している。地質調査には研究者の主観性が強く出ることが多かったが、このような技術が進めばより説得力のある客観的なデータが誰にでも取得できるようになるのかもしれない。	3D多視点ステレオ写真測量技術、デジタル露頭モデル、自動抽出
T07 堆積地質学の最新研究	T7-0-4	9/15 第5会場 (E205) 15:45 ～ 16:15	池原 研	海底のイベント堆積物を用いた地震履歴研究の現状と今後のチャレンジ：日本周辺海域の研究から	海底に堆積するタービダイトは昔から堆積学者の興味を惹きつけてきており、数多くの研究がなされてきた。長年にわたる知見の蓄積や研究者の経験に基づいた深い洞察力に加え、最近の計測・測定機器の進歩が組み合わさることにより、精度の高い地震履歴の解明につながりつつある。タービダイト研究の将来的な展開に注目したい。	タービダイト、巨大地震、環境変動
T07 堆積地質学の最新研究	T7-0-14	9/16 第5会場 (E205) 10:00 ～ 10:30	山田 泰広	九州地域の天然水素ポテンシャル評価について	水素は従来、石油や天然ガスのような天然資源として存在するとは考えられていなかったが、近年、世界各地で天然水素の発見が報告され、低コストなカーボンニュートラル燃料として、研究機関による調査や、ベンチャー企業による探鉱、開発が進められている。本研究は、これまでの天然水素に関する知見を踏まえ、九州地域の地質ポテンシャル評価スタディを進めているものあり、その成果が注目される。	天然水素、九州、ポテンシャル評価
T07 堆積地質学の最新研究	T7-0-15	9/16 第5会場 (E205) 10:30 ～ 10:45	山本 和幸	古気候変動、堆積・続成作用、および油田形成の相互作用により生じた下部白亜系干潟炭酸塩岩 (Tidal flat carbonates) の孔隙率・浸透率の不均質性	油田開発では、石油を貯留する地層の不均質性を理解することは、合理的な開発計画を考える上で最も重要な要素の一つである。本研究は、干潟炭酸塩岩の堆積環境による岩相変化と、その後の続成作用による各岩相の孔隙率、浸透率の増加、減少の両方の作用を詳細に検討し、地層の不均質性を包括的に解明しており、有益な洞察を与えるものである。	干潟炭酸塩岩、続成作用、不均質性
T07 堆積地質学の最新研究	T7-0-7	9/15 第5会場 (E205) 17:00 ～ 17:15	清原 愛	長野県白骨温泉に分布する上部更新統サンゴ礁複合体堆積物の堆積過程	トラバーチンとは、温泉水から形成された炭酸カルシウム沈殿物である。トラバーチンは日本各地に存在するが、白骨温泉には日本最大規模の化石トラバーチンが分布しており、一部は国の特別天然記念物にも指定されている。本研究は白骨温泉において、かつてどのように温泉水が流れ、トラバーチンが形成されていたのか、堆積学と地球化学からその詳細を明らかにしている。	温泉、石灰華、古環境
T07 堆積地質学の最新研究	T7-0-9	9/15 第5会場 (E205) 17:30 ～ 17:45	松田 博貴	鹿児島県喜界島における琉球列島に広がる三波川変成岩帯の深部付加プロセス	琉球列島には、約160万年前以降にサンゴ礁などによって形成された琉球層群が広く分布する。本研究は、喜界島に見られる琉球層群の垂直的・水平的な変化を詳細に調査することで、徐々に浅海化が起きたことや、同じ時代でも地形や海流の影響で異なる堆積物が形成されたことなどを明らかにしている。	喜界島、琉球層群、海水準変動
T09 大地と人間活動を楽しむながら学ぶジオパーク	T9-P-1	9/14	吉岡敏和	阿蘇火砕流だけじゃない！ーおおいた豊後大野ジオパークの地質の多様性ー	本ジオパークのエリアには、カンブリア紀後期から第四紀更新世後期まで、古第三紀以外のほぼすべての時代（紀）の地層・岩石が分布し、更に岩石の種類としては堆積岩、火成岩、变成岩のすべてが存在する。メインテーマの巨大火砕流（阿蘇火砕流）は本地域を代表する地質で自然や文化を特徴づける要素であるが、多様な地質とそれらに繋がる自然や文化も組み合わせることで、より深く楽しいジオストーリーができることが期待される。	おおいた豊後大野ジオパーク、地質多様性、阿蘇火砕流
T09 大地と人間活動を楽しむながら学ぶジオパーク	T9-0-7	9/14 第1会場 (E105) 11:45 ～ 12:00	天野 一男	DEEP TIMEとSHALLOW TIMEをつなぐ物語ー『大地と人の物語』発行の意義ー	日本地質学会が各地のジオパークに伝わる伝承や神話、風土記などの文化的ストーリーと、それに対応する地質現象を結びつけて紹介する『大地と人の物語』を出版した。本書を通じて、様々な地質現象と、それに対応して暮らしてきた人々の知恵や文化を、統合的に理解し、地球規模の長い時間軸すなわち「ディープタイム」へと想像力を広げていくことができる。	ジオパーク、文化、神話
T10 テクトニクス	T10-0-1	9/15 第2会場 (E107) 15:00 ～ 15:30	遠藤 俊祐	海洋底から造山帯へ：三波川変成帯の深部付加プロセス	高圧型の広域変成岩帯は、沈み込み境界の深部で起こるさまざまな現象を理解するための「窓」として重要視されてきた。発表者らは、四国の三波川変成岩類を主な対象として、緻密な野外地質調査と岩石記載に基づく研究を展開し、それらの形成に関わる底付け付加作用の実態を明らかにしてきた。本招待講演では最新の研究成果に基づき、三波川変成岩帯からみた白亜紀の海洋プレートの特徴や付加テクトニクスについて紹介していただく。	#三波川 #海洋底 #付加
T10 テクトニクス	T10-0-2	9/15 第2会場 (E107) 15:30 ～ 15:45	ウォリス サイモン	西南日本白亜紀地質進化に対する海嶺沈み込みモデルの再検討	日本列島の形成過程を理解するうえで、海嶺の沈み込みはきわめて重要な地質イベントの一つである。特に白亜紀の海嶺沈み込みは、三波川・領家変成作用や大規模な火成活動と深く関連づけられて議論されてきた。しかし近年、従来の枠組みでは説明しきれない地質記録が相次いで報告され、海嶺沈み込みモデルの再検討が求められている。本発表では、この海嶺沈み込みモデルに関する最新の知見を整理し、従来の理解を踏まえつつ一歩進んだ新たな枠組みを紹介いただく。	#白亜紀 #海嶺 #沈み込み

T11 都市地質学：自然と社会の融合領域	T11-0-8	9/15 第4会場 (E203) 15:00 ~ 15:30	石原 与四郎	九州地盤情報共有データベースを用いた浅層地質の三次元モデル構築の試み	都市域における浅層の地質・地盤特性の三次元的な分布の把握は、平野の形成過程の解明のみならず、地盤の強度や液状化ポテンシャルといった工学的観点からも極めて重要な課題である。本講演では地質・地盤の三次元モデルの構築手法の概要と、演者が行ってきた九州地盤情報共有ボーリングデータベースを用いた浅層地質・地盤モデルの事例を中心に紹介し、今後の高精度化の可能性について議論する。	都市地質、三次元地質モデル、ボーリングデータベース
T11 都市地質学：自然と社会の融合領域	T11-0-1	9/15 第4会場 (E203) 10:15 ~ 10:30	米岡 佳弥	都市域の3次元地質地盤図：「千葉県北部延長」地域における更新統下総層群の層序	演者は3次元地質地盤図「千葉県北部延長」地域の調査において、更新統下総層群のテフラ層序を詳細化し、関東平野中央部の継続的な沈降運動とMIS 7c最大海進期の海陸境界付近の層相変化を明らかにした。地下浅部の地層の連続性や層相変化を正確に把握できたことにより、持続可能な地下水利用や地盤リスク評価への貢献が期待される。	3次元地質地盤図、下総層群、千葉県
T12 地球史	T12-0-19	9/15 第5会場 (E205) 11:30 ~ 12:00	松本廣直	白亜紀堆積岩を用いたオントンジャワ海台の噴出年代の制約	巨大火山噴火は気候や生態系に基大な影響を及ぼし、地球史における主要な環境変動の要因となってきた。松本廣直氏は、白亜紀における世界最大級の火山活動の産物であるオントンジャワ海台の噴火史と、それに伴う地球表層環境変動との因果関係を同位体地球化学的に精査し、関係解明に大きく貢献してきた気鋭の若手研究者である。本講演では、堆積岩に刻まれた記録を通じて、大規模火山活動が環境に及ぼす影響の最新成果が示される。	白亜紀、オントンジャワ海台、海洋無酸素事変1a
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-P-11	9/15	檜垣 悠斗	紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県美杉地域南部における75 Ma苦鉄質岩～中間質岩類と花崗岩類の地質構造	中央構造線そいの領家深成岩類のマイロナイト化形成史はK-Ar年代で復元されてきたが、新規貫入岩による若返りがありえるため複数回のマイロナイト化は検出しそこなう可能性がある。この研究では若返りを拾いにくいジルコンU-Pb年代を測定することによって高精度の火成活動史や変形史を考察するものである。	マイロナイト、高見山、畑井トールナル岩
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-P-19	9/15	富樫 琴美	アバタイト微量元素組成を用いた南東北に分布する中新世～第四紀の凝灰岩と海洋コアに挟在する凝灰岩との対比の試み	奥羽脊梁地域には新生代後期の大規模陥没カルデラが多数分布しているが、それぞれのテフラ物質の識別・対比は不十分である。この研究ではアバタイトの微量元素分析とジルコン年代測定にもとづいて陸上のカルデラ噴出物と三陸沖の海洋コアとの対比を試みるものである。このような基礎データを蓄積することで広域テフラの指標を中新世まで押し広げることができる。	アバタイト微量元素組成、三陸沖、水蔵カルデラ、城ノ入沢カルデラ
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-P-12	9/15	李 琪	紀伊半島東部領家深成岩類のジルコンU-Pb年代に基づくマイロナイト化の時期：三重県飯南地域の例	紀伊半島東部の領家変成帯は、延性・脆性変形を被った火成岩と低P/T型変成岩から構成されており、この変形履歴は、後期白亜紀ユーラシア大陸東縁の火山弧隆起の地殻変動過程を理解する鍵となる。この研究では年代測定を実施し、変形の産状区分と組み合わせることによりマイロナイト化の回数や時期について新たな制約を与えるものである。	マイロナイト、畑井トールナル岩、三峰山トールナル岩
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-P-16	9/15	川並 仁美	牟婁層群・熊野層群の層序に基づく「サラシ首層」の成因と層序学的帰属の検討	サラシ首層は紀伊半島南部に分布する奇妙な地層である。径数メートルの巨礫を含む特異な含角礫泥岩層で帰属や成因についてこれまで多様な意見が提出され議論されてきた。この研究では現地の緻密な産状観察と堆積相解析によりこの問題を解決しようとするものである。	泥火山、含角礫泥岩
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-P-6	9/15	前 圭一郎	夜久野オフィオライト久米南岩体の全岩主要化学組成	舞鶴帯には古生代後期に形成された「夜久野オフィオライト」が知られているが、この形成史や古生代末期の東アジア周辺発達史については未解明な部分が多い。この研究では久米南岩体に産する変斑れい岩、ドレライト・玄武岩、トールナル岩の全岩化学分析にもとづいてマグマの起源や系列について論じるものである。	舞鶴帯、mg#-TiO図、塩基性岩
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-P-26	9/15	上岡 竜貴	松江市玉湯町の川合層砂岩に見られる不整合境界の特徴と堆積構造、およびそれらから推定される古環境	本研究でとりあげる川合層は中部中新統で日本海拡大に伴う海進期の地層とされる。この研究では野外調査と堆積相の記載を行い、海進期の地層がどのような環境変化・堆積過程をたどったかを明らかにするとともに、基盤との高角の不整合・層理と平行な不整合がそれぞれ海食崖・波食棚であることなどを示すものである。	海食崖、波食棚、日本海拡大
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-P-27	9/15	日比野 翔吾	島根県大田市五十猛町周辺に分布する中新統川合・久利層砂岩の特徴の多様性	本研究は島根県大田市の中新統の砕屑岩・火山砕屑岩の産状観察にもとづいて従来は曖昧であった砕屑岩、とくに砂岩を成因的に区別し、それらが陸側あるいは水底火山からの堆積物供給の中で複雑な形成過程を経たことを示そうとするものである。	水中火山岩、タービダイト、スランプ褶曲
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-0-18	9/16 第6会場 (E305) 11:30 ~ 12:00	羽地 俊樹	山陰東部、中新統北但層群における地域地質・層序学的基礎研究：最近10年の進展と残る課題	山陰地域は前世紀後半以降、研究の進展が乏しい典型的な日本のフィールド事情を示す地域である。羽地氏は同地域において約10年間にわたり稠密な野外調査を実施し、小地域の研究成果を着実に積み重ねるとともに、それらの成果を基に前世紀末に提示された堆積盆発達史の精緻化を目指している。本講演では、今後のフィールド研究のモデルとなることを期待し、羽地氏の山陰地域における研究事例を紹介いただく。	フィールドジオロジー、地質図、高精度堆積盆発達史
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-0-14	9/16 第6会場 (E305) 10:15 ~ 10:30	金指 由維	青森県下北半島西部、佐井地域に産する中新世火山岩類の産状とジルコンU-Pb年代	東北日本の中期中新世は引張場と圧縮場が共存したリフト・ポストリフト遷移期であり、背弧海盆火山活動から島弧火山活動へ移行した時期でもある。この研究では佐井地域の地質踏査にもとづく地質図をベースに、火山岩の年代測定・全岩化学分析結果に基づいて引張テクトニクスの継続時期やマグマ成因について議論する。	リフト・ポストリフト遷移期、島弧火山活動、U-Pb年代
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-0-1	9/16 第6会場 (E305) 15:00 ~ 15:15	高橋 恒佑	北海道蝦夷層群のチュエロニアン/コンニアン境界における大型化石・炭素同位体比統合層序と高精度国際年代対比	T/C境界のGSSPはドイツにあり、補助境界模式地も欧米にあるのみで、北西太平洋地域においてT/C境界がどこに対比されるかは重要な問題である。この研究は北海道の古丹別川において凝灰岩のアバタイト微量元素組成を用いた柱状対比により露出欠如を補完し、その上で大型化石・炭素同位体比統合層序を作成し、T/C境界を数mの制度で特定するものである。	Turoian/Coniecian boundary、古丹別、GSSP
T13 地域地質・層序学：経過と集大成	T13-0-16	9/16 第6会場 (E305) 10:45 ~ 11:00	吉田 颯	下北半島、鮮新世～前期更新世大畑層分布域に新たに見出された複合カルデラの地質構造：産状、岩石学的特徴、およびジルコンU-Pb年代からの制約	東北日本弧は島弧火山活動期(13.5 Ma以降)のカルデラの宝庫である。この研究は下北カルデラ群を例に地質踏査による産状観察、岩石学的記載・年代測定にもとづいて、複合カルデラの複雑な層序関係の実態・形成史を明らかにするものである。	大畑カルデラ、下北カルデラ群、薬研層
T14 九州の火山テクニクス	T14-0-1	9/16 第1会場 (E105) 8:45 ~ 9:15	趙大鵬	地震波トモグラフィーから見た九州の地震火山活動と沈み込みダイナミクス	九州地域はフィリピン海プレートが沈み込む成熟した島弧であり、沖縄トラフと中央構造線の会合部であり、火山弧と別府・島原地溝が交差する、世界でも特異な地域である。趙大鵬博士はこれまで、地震波トモグラフィーを用いて九州地域の大隅構造、プレートや流体と地震火山活動の関係など数々の重要な指摘をしてきた。趙博士による九州の地震火山活動とフィリピン海プレートの沈み込みダイナミクスは必見である。	地震、火山、地震波トモグラフィ

T14 九州の火山テクニクス	T14-0-6	9/16 第1会場 (E105) 10:30 ～ 11:00	三好雅也	中部九州阿蘇地域におけるマグマ活動の時間変化とそのテクニクス背景	三好雅也会員らは中部九州の火山岩の岩石学学的研究に基づき、九州直下に沈み込んだスラブ起源流体のマントルへの関与を研究してきた。阿蘇地域の400万年間に及ぶ火山活動、マグマの劇的変化から、その背景となる沖縄トラフの拡大やフィリピン海プレートとの関与までを論じる「阿蘇科学」の最先端を見逃すな。	マグマ活動、テクニクス、阿蘇地域
T14 九州の火山テクニクス	T14-0-3	9/16 第1会場 (E105) 9:30 ～ 9:45	木尾竜也	霧島山新燃岳2025年噴火の火山灰構成粒子の時間変化（速報）	霧島山新燃岳では2025年6月22日に約7年ぶりに噴火活動を再開し、8月22日現在も断続的な噴火が継続し、深部からのマグマ供給も示唆される。木尾竜也会員らは、刻々と変化する火山噴火に伴う火山灰構成粒子の時間変化を丹念に調査している。新燃岳のマグマ内や火口内で何が起っていて、今後どう変化するのか、最新の研究成果に注目されたし。	霧島山新燃岳、火山灰、噴火推移